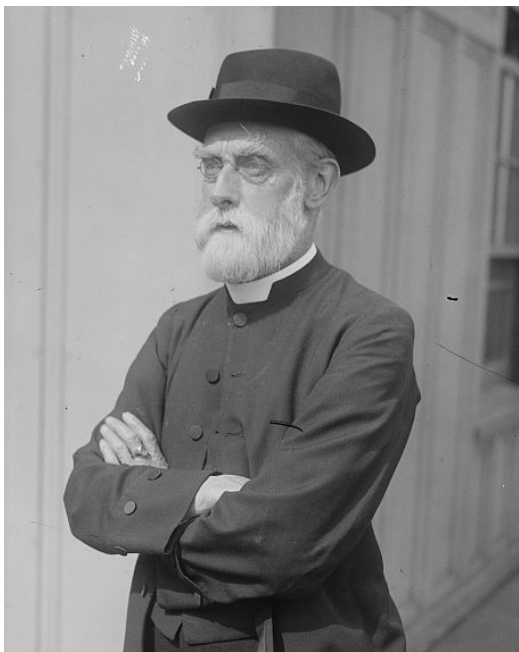


キリスト教社会連合

チャールズ・ゴア、英国教会の高位聖職者・学者によるキリスト教社会主義団体



写真：チャールズ・ゴア

(c) https://en.wikipedia.org/wiki/Charles_Gore

基督教友愛新聞

発行所：
白十字キリスト教
社会主義研究会
(<http://www.ichtus.net/css>)
発行人：
倉井 香茅哉 (独立系研究者)

一八七七年、スチュアート・ヘドラムによる聖マタイ・ギルドの創設によって、キリスト教社会主義団体は復活した。また、一八八〇年代には、H. M. ハインドマン率いる社会民主連盟、ウィリアム・モリスやE. B. バックスらの社会主義者連盟、さらに、フランク・ポドモアやウェッブ夫妻をはじめとするフェビアン協会といった社会主義団体が創設され、継続的な不況に起因する転換の時代に対峙した。以上の時代背景を前提として、今回は、一八八九年、チャールズ・ゴアを中心として設立されたキリスト教社会連合 (Christian Social Union、略称：CSU) について概説し、英国教会が本格的にキリスト教社会主義運動に取り組むようになったきっかけを探りたい。

チャールズ・ゴアは、「オックスフォード運動」と呼ばれるカトリック復興運動が一大勢力であった時代のオックスフォード大学に学んだ。トリニティカレッジのフェロー(特待研究生)に推挙されたゴアは、一八八〇年のカデスデン神学校の副校長就任を経て、一八八四年、ピュージーハウスの館長として奉職した。在勤中、彼は三つの計画を立てた。すなわち、復活修士会の結成、キリスト教社会連合の創設、そして、神学論文集『ルクス・ムンディ』の刊行である。儀式的礼拝の型を愛しつつ、聖書批評の手法を採用する新時代の神学者であった。

キリスト教社会主義、「受肉」の神学が アングロ・カトリックの「正統」神学へ

一八八九年六月のキリスト教社会連合の設立は、キリスト教社会主義運動の歴史のみならず、英国教会の歴史においても大きな意味をもっていた。それまでは異端的な位置づけであったキリスト教社会主義が、英国教会の高位聖職者や学者に受け入れられ、大きな影響力を持つようになったのである。CSU設立の中心を担ったのは、チャールズ・ゴア、セント・ポール大聖堂の参事会員スコット・ホランドである。また、彼らがCSUの議長に据えたのは、聖書学者として著名なダーラム主教、B. F.

論説＋立憲民主党へのギモン?!

「草の根からのボトムアップ型政治」と
議会制民主主義は両立するのか、
立憲民主党は「保守」政党なのか、etc

今回は、第四八回衆議院議員選挙で躍進した立憲民主党への素朴なギモンを表明したい。一言で要約すれば、「草の根からのボトムアップ政治」の下では、直接民主主義的な政治理念と議会制民主主義との緊張関係は、いかにして解消されるのか。

一九世紀、英国のウィリアム・モリスは、議会政治は中上流階級の利害を代弁するだけであると批判し、パリィコミューン型の直接的な政権奪取を志向した。現代

かつてF. D. モーリスが唱えた神学の基礎でもあった。一九一三年までに一六名のCSUメンバーが主教に就任し、影響力を拡大した。

一方、CSUには、教会の聖性、選抜性に起因する一種のエリートイズムが存在した。初代教会への憧憬をもつゴアの神学では、「異教的な外部世界」と「真理を担う教会」の二分法が強調される。彼にとつての教会は、国家とは別個に、「世の光 (Lux Mundi)」として社会を教化する神聖な使命を帯びるものであった。聖マタイ・ギルドのヘドラムが芸

天帳院日記

自己の人生のうちに、折にふれて懐古する時代がある。大学院受験の頃の記憶は、その一つである。学部三年の終わりに二度、早朝に北九州空港から飛行機で上京した。受験の当日は、筆記試験と面接で、やはり二度、飛行機で往復した。羽田空港と東京都内を結ぶモノレールに乗ると、いまでも当時の光景が眼に浮かぶ。

十一月二三日、文学フリマ東京の会場へ向かうため、久しぶりにモノレールに乗った。文フりに参加したのは約三年ぶりである。数年来、交流のあった人たちの顔が車窓に浮かんだ。「勇ましい高尚なる生涯」を志したこともあったが、一世一代の大事業は、しばしば周囲を振り回してしまふ。今は反省の日々である。だが、「すべては空しい」というコヘレトの言葉とともに、我らはすでに救い主が来られたことを知っている。——小さくたって明日を待ち望む。

【参考文献】

(一) 稲垣陽一郎『チャールズ・ゴア』主編、学者、思想家、教師、預言者、聖徒、修士会創立者(白石庵敬神会、一九九六年二月)
(二) 井上治『アングランド国教会における教会観の変化 一八八九—一九二四年』キリスト教社会連合とウィリアム・デンプル—、『史料』第八七巻第五号(史学研究会、二〇〇四年九月)

告知

イクトウス・プロジェクト P R E S E N T S アドヴェント・ライブ 2017

音楽・映像表現：倉井香矛哉

歌・朗読：micare

シンセサイザー演奏、歌唱、絵本朗読（予定）

日時：2017 年 12 月 3 日（日）午後

※クリスマス礼拝の「第二部」（11:00～）の最後、または、「第三部」のはじめに出演予定です。
子どもたちの出し物もあり、当日柔軟に対応できるよう、正式なプログラムはございません。
（昼食は各自ご用意ください。）

会場：今井館聖書講堂

〒152-0031 東京都目黒区中根 1-14-9

（東急東横線「都立大学駅」から徒歩 7 分）

主催：渋谷聖書集会（子ども会）